



SUZUKI・Y 250 改・Yajima special

遥かなる青空の彼方に

日本一周

Vol.02

1978年8月11日～1982年8月17日

遥かなる青空の彼方に 其の式

<http://p.booklog.jp/book/35453>

著者 : lauriercb4004in1

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/lauriercb4004in1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35453>

ブックログのpapier本棚へ入れる

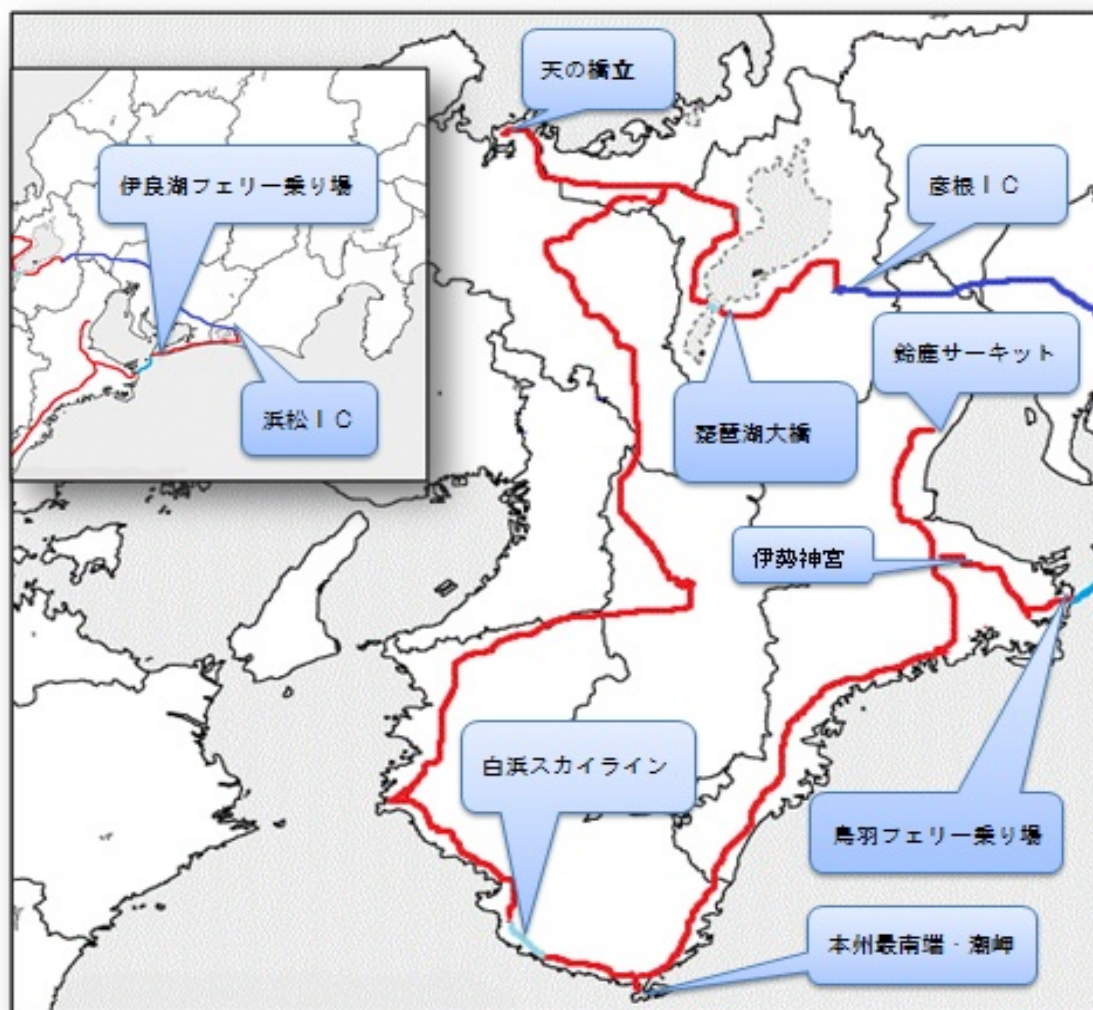
<http://booklog.jp/puboo/book/35453>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

紀伊半島 編 (1978年 8月11日～16日)

全走行経路



全走行距離 1,476.2km・燃費 不明

1978年 8月11日(金) 晴れ

今日から記入。

会社の連休使って、日本一周をするつもりだが本当に達成が出来るのか不安だ。

第一日目は、紀伊半島一周。

浜松 I・C から東名高速道路を走り、名神高速道路を使って彦根 I・C で降りて国道 306 で琵琶湖の湖畔まで行く初めて見る琵琶湖！日本最大の湖、大きい対岸が霞んで見える。

県道 25 で湖畔沿いを走り近江八幡国民休憩村まで行き、ここの食堂で昼食を食べて休憩。

国道 477 から琵琶湖大橋 (¥100) を渡って国道 161 で琵琶湖に浮かぶ浮御堂(うきみどう) (満月寺) [Y1] へ向かう。



(有料道路の領収書)

[Y1]浮御堂(うきみどう) (満月寺)

【近江八景『堅田落雁(かたたらくがん)』で名の高い浮御堂は、寺名を開門山満月寺という】

【平安時代、恵心僧都が湖上安全と衆生済度(しゅじょうさいど)仏教語で、仏道によって、生きるものすべてを迷いの中から救済し、悟りを得させる事を祈願して建立したと言われている】

【現在の建物は、昭和12年の再建によるもので、聖観音座像が安置されている】



(江戸時代の浮御堂)

国道161から住宅街を抜けると湖畔沿いに浮御堂が在る、はずなのに浮御堂が無い！湖畔の周りを見ても見当たらない！道に迷った様だ。

道が分らず地元の人に聞くと『そこを右に曲がって、突き当りを右で次に左で右・・・』で、直ぐそこだ！と教えてくれた。（ここは、迷路か！？）

そんな具合で、なんとか迷いながらも浮御堂に到着したが近江八景！まだ若い俺には、この風景の良さは解らない。

浮御堂で写真を撮ろうとした時にカメラのキャップが無いのに気が付いた。

多分、記念の一枚目を東名高速道路のサービス・エリアでキャンプ用品満載の撮った時に落としたと思う。

浮御堂からの帰りは、すんなりと国道161に出る事が出来た行きの迷い道は何だったのか・・・？

浮御堂をあとにして、国道161から県道304に入り近江白浜キャンプ場（¥800）にテントを張る事にした。

ここのキャンプ場は、オートバイをキャンプ場の中まで持って行けるので安心、オートバイの横にテントを張りって、まずは汗を流してから飯の支度をしようと思ひ琵琶湖でひと泳ぎ！汗と排気ガスで体が、ベトベトしていたから泳いだ後は涼しくて気持ちがい～い！

周りは若い数人の男女のグループがキャンプをしている。

《キャ～！キャ～！ワイ！ワイ！》とウルサイ！！

ハンゴウで、ご飯を炊いておかずはサンマの缶詰め、外で食べるご飯は美味しい！

インスタント・コーヒーも家から持って来たので、お湯を沸かしてコーヒーも飲む、これも、美味しい！

太陽が沈み一日が終わり長い様で短かった一日。

明日もガンバロウ！CB400・FOUR調子は抜群、明日も今日の様な調子だと良いだが知らない間に走行距離が7,000kmになっていた。

夜になっても数人の男女のグループは、花火を打ち上げて騒いでいて《ウルサイ！》

全走行距離 309.2 km・燃費 10 km/ℓ

8月12日（土） 晴れ

今日は、朝から道に迷ってしまった。

キャンプ場を出て、県道304を右に行くのを左に行ってしまう標識に気が付かなかつたら、そのまま走り続けていた。

気を取り直して来た道に戻り朝、出発したキャンプ場の前を走る。

国道161から国道303（丹後街道）を走り、国道27（若狭街道）で天の橋立に向かう。（国道303は、白バイが多い）

天の橋立までの国道27は、渋滞も無く順調だったが天の橋立まで来ると渋滞で身動きが出来ない。

お土産屋の人に断って店の横にオートバイを置かせてもらい歩いて天の橋立の中を歩く。（6メートル位の幅の砂道の左右に松が植わっている所を歩く、ここが天の橋立？）

やっぱり！天の橋立は遠くから一望できる場所まで行かないと良さが解らない！天の橋立が一望できる名所の場所をオートバイに乗って目指すが道に迷って遂に行く事が出来なかった。（地元の人に道を教えてもらったのに迷ってしまった）

まだ、先が永い！時間を無駄に出来ないので仕方がなく、引き返して京都までの一本道の国道162に向かう京都までの道のり120kmを国道162で急ぐ！

予定ではPM4：00前には京都に入れるはずだ！

信号で停まると暑い！ヘルメットの中はサウナ状態！オートバイの熱気が凄い頭から水をかぶり風呂に入りたい！

京都までの国道162は、道幅が広くて信号機が少なくて景色の良い道を走る。

京都に着いたのがPM3：00過ぎ今日の宿は宇多野ユース・ホテルだったが予約をして無かったので宿は満室でダメ！

旅館は泊めてくれない！丁重に断れた仕方がない、もの凄く汚い格好だからなあ・・・。

京都での予約なしの飛び込みは無理！泊まる所が無ければ野宿の覚悟を決め明るい内に野宿をする場所を探したが京都での野宿は難しい。

休憩を兼ねて喫茶店「九十九(つくも)」に入り、アイス・コーヒー飲みながら地図を見ていると喫茶店のおばさんが『宿を探しているの？』と話し掛けて来て、おばさんが宿を紹介してくれた。（おばさん、アリガトウ！）

おばさんが道を丁寧に教えてくれたのに何処をどの様に道を間違えたのか道に迷って行き止まりの道に成ってしまい大きな旅館の前に出てしまう方向転換するにも坂道、キャ

ンプ用品を満載したオートバイには坂道の方向転換はキツイ！やっぱり、バランスを崩して立ちコケをしてしまった。

旅館の前で客待ちをしていたタクシーのおじさんが坂道でのオートバイを起こせない俺の奮闘ぶりを見兼ねて助けてくれた。（ありがとう！タクシーのおじさん）

気を取り直して、おじさんにお礼を言って迷いながらも宿を見つけ辿り着く。

「嵯峨の里」と言う民宿、ここも人でいっぱい東京から来た人と相部屋になってしまった。

今夜は、久しぶりの風呂！ゆっくりと3日ぶりの風呂に浸かって汗を流した。

後で入った人は、俺のアカと排気ガスで汚れたお湯に入る事に・・・。

夕食は、街をブラブラと歩いて入った喫茶店のカレー（¥800）で済ますせて宿に帰って来た。（観光地、京都はアベックが多い！孤独で一人旅のライダーには無縁の街・・・）

全走行距離 302.2 km・燃費 不明

8月13日（日） 晴れ

朝、出発する時にガソリン臭いと思ったら、キャブのブリーザー・パイプからガソリンが流れ出ていた形跡があった、大した事が無いと思いそのまま走り出す。

国道162から国道1を通過して、京都を迷わず無事に出る事が出来たと思ったら奈良に向かう国道24は渋滞！

渋滞の中、国道24沿いに【平城宮跡⇒】の看板を見つけ寄る。

駐車場にオートバイを置いて敷地内を歩くが観光客が誰もいないのにビックリ。

建物の復元は無く建物の基礎石だけがあるの場所では人気が無いらしい。（外見では無く、中身では！）

1200年以上前、この場所に巨大な建造物が立ち並んでいたのを考えるだけで十分だと思うのだ。

平城宮跡をあとにして、渋滞の国道24に戻って、しばらく走ってから自動車と軽い接触事故を起こしてしまった。（渋滞していて、俺の一瞬の脇きみ運転が原因）

オートバイの損傷は、右側のスピード・メーターに傷が入り、右側のフェンダーを支えているステイが「くの字」に曲がってしまった。

俺の怪我は大した事は無く、左腕の擦り傷に左足打撲でアザになって痛くて歩く時、脚を引きずる。



（事故直後の写真）

車の運転手の方が渋滞で、急にブレーキを掛けたからと言って謝って来て俺の怪我もたいした事も無いしオートバイの修理や車の修理は自分持ちと言う事で示談成立。（車

は後方のバンパーが凹んで傷付いた)

国道24で奈良市に入り、駐車場にオートバイを置いて東大寺まで歩いて行き大仏殿を見学。

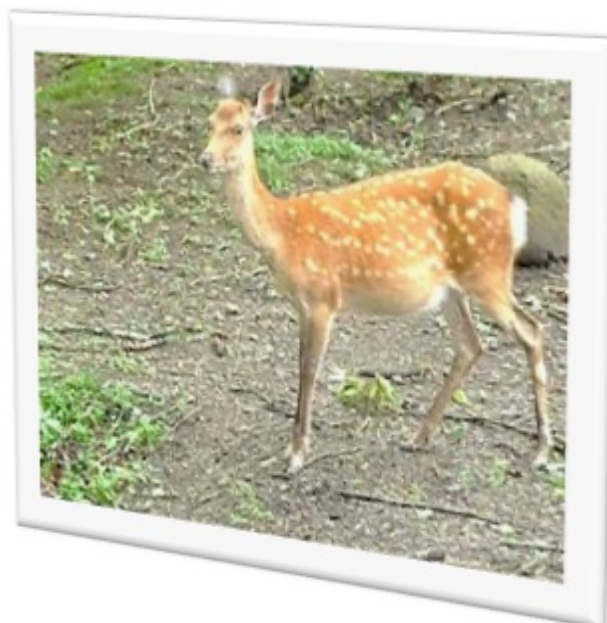
中学の修学旅行以来の奈良だが何も変わっていない。

大仏殿をあとにして、奈良公園の鹿は沢山いるのは知っていたが春日大社の近くの住宅街にも野良鹿が徘徊しているのには驚いた！

普通に野良鹿が民家の前の道を歩いている珍風景、恐るべき奈良！



(東大寺・境内の野良鹿と大仏殿)



(春日大社の近くの住宅街の空き地を徘徊していた野良鹿)

奈良市をあとにして、天理市に向かう国道24は渋滞で時間は掛かったが何とか渋滞を抜けて天理市から国道169で明日香村まで行き、明日香村に着いてからは県道15で亀石(かめいし)[Y1]に向かう。

地図を確認しながら県道155から更に横道に入って亀石(かめいし)に到着。(家で詳しい地図を書いて来て良かった！)

[Y1]亀石(かめいし)

亀石は巨大な花崗岩(かこうがん)が亀に似た形をして長さ3.6m、幅2.1m、高さ1.8mある。亀石は、以前は北を向き、次に東を向いたと言われている。今は南西を向いているが、西に向き当麻(たいま)の方を向くと奈良盆地は一円、泥の海と化す、と伝えられている。



(亀石・正面はこんな感じ)

亀石をあとにして、県道155で酒船石(さかふねいし)[Y1]まで行くが住宅街の角に小さな案内看板があるだけで、看板を見落としたり迷う様な細い道をしばらく走り酒船石

がある丘に何とか辿り着く。

[Y1]酒船石(さかふねいし)

花崗岩の石造物で、東西を向いて、長さ5.5m、幅2.3m、厚さ約1m。上面に皿状の幾つかの窪みとそれを結ぶ溝が彫り込まれている。酒を造る道具、あるいは薬などを造るための道具と諸説がある。

最近、人が通った形跡が無いほど草が生え手入れされていない丘の道を登り頂上付近の右手に酒船石があるが柵も何もしていない！？野ざらし・・・。

後で写真を見て驚いた！オーブ[Y1]らしき物が写っている。



(酒船石)

[Y1]オーブ

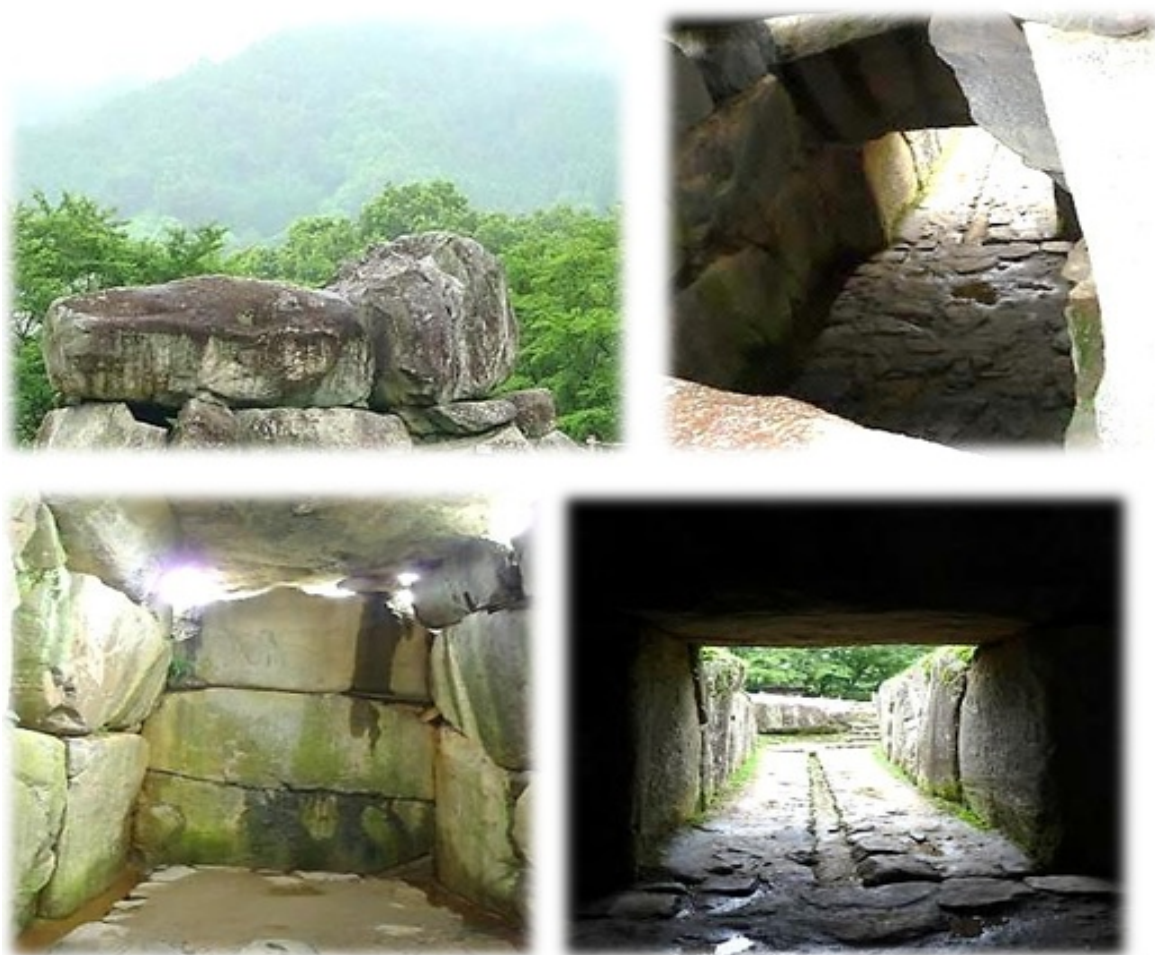
【オーブとは、靈魂、神仏、自然靈、写真に写り込む小さな水滴の様な光球。（オーブ現象・玉響(たまゆら)とも言う）】

酒船石(さかふねいし)をあとにして、県道155で石舞台古墳(いしぶたいこふん)に向かう。

石舞台古墳[Y1]までは、標識があって迷わずに到着。(ここで初めて入場料を取られる。)

[Y1]石舞台古墳(いしぶたいこふん)

【石舞台古墳、蘇我馬子(そがのうまこ)の墓とされている埋葬施設で花崗岩で造られた石組みで高さ約4.7m・羨道(えんどう)は長さ11m・幅2.5mの規模で石室内部には排水溝施設がある。】



(石舞台古墳の内部)

来た道に戻り、県道155で国道169に出て伊勢街道(国道370)を走り五条市を抜け国道24で和歌山市を目指す。

国道24は、凄い渋滞!なかなか車が動かないので早めの昼食を食べて時間をずらしてみたが渋滞は、なかなか解消しないので仕方がなく注意をしながら車の横をすり抜けて走る。(渋滞していなければ、国道24は走りやすい道路なのに!)

国道24で和歌山市に入ると街中を走り、回ってるオートバイが多くなり白バイも多い

。国道24から和歌山市を抜けて、国道42に入り美浜町を目指して南下し途中のドライブ・インで休憩を兼ねての早目の夕食を食べる。

国道42（熊野街道）は、所々で海が見えて景色のいい場所が沢山あって走ってても気持ちがいい。



（国道42・熊野街道の何処かの海岸）

国道24（熊野街道）の渋滞で時間をロスしてしまい今夜の泊まるアメリカ村・キャンプ場（¥100）は夕方に着いた。

琵琶湖では、使用料¥800取られたのにどうして、こんなに値段が違うのか？日も傾いて来て暗く成って来たので着く成りテントの準備。

ここに来る前に、ご飯を食べて来たから今夜は夕食の支度は無いし、あとは体を拭いてシュラフの中に入って寝るだけ。

明日も夏の暑い日差しの中を走らないと、いけないから寝ようとするが蚊が多く、シュラフから顔を出して眠るのは無理で暑いのを我慢して頭までシュラフを被って寝る。（子供は走り回り、奇声を上げている）

今日も付いてナカッタな～あ！（昨日から続けて嫌な事が続く）

日本は狭いと人は言うけど時間を掛けてコツコツと旅をしていると結構広く感じる。旅をして綺麗な景色を見て美味しいご飯を食べ嫌な事もあるが旅は最高ダ！

全走行距離 233.8km・燃費 不明

8月14日（月） 晴れ

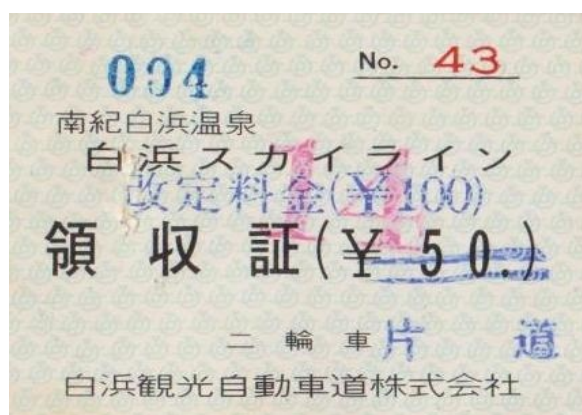
朝、起きてみると足の腫れは引いて、歩いても足は痛くない一安心。

フェンダーの曲がったステイを取り外してから出発。

今日は、串本まで行く。

アメリカ村・キャンプ場をあとにして、国道42を南下していると、すれ違うライダーが多いのでピース・サインを出すのに忙しい、すれ違う相手もピース・サインを出してくれると通じるモノを感じる。

国道42（熊野街道）から、[白浜スカイライン（¥100）](#)に入ってまた国道42（熊野街道）に入り串本まで行く。



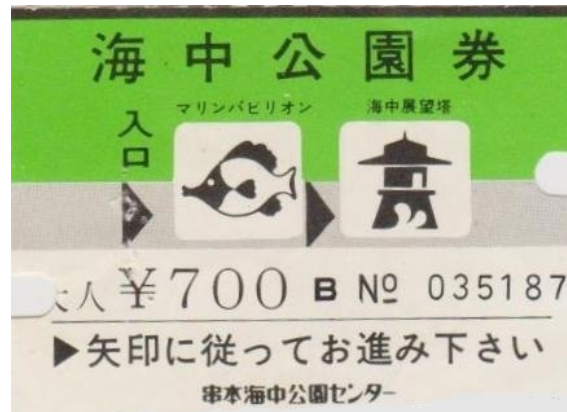
（有料道路の領収書）



(国道42の看板の前で)

白浜スカイラインに向かう途中、休憩をしているとスズキ・GS400のタンデムと知り合い一緒に千畳敷と三段壁まで走って見学をし三段壁で記念写真を撮った後、二人と別れ国道42(熊野街道)を南下すると、すれ違うライダーが増える。

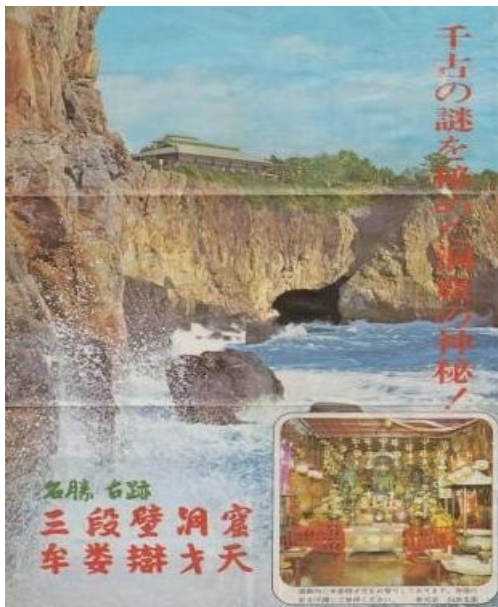
太平洋を右手に見ながら、本州最南端にある串本海中公園(¥700)まで行き海中の泳いでいる魚を見学できる海中展望館を見学、なかなか良かった。



(海中公園の半券)



(三段壁)



(三段壁のパフレット)

串本海中公園をあとにして、国道42で橋抗岩まで行く。

橋抗岩ここは、ただ大きな岩が一直線に沢山、並んでいるだけであとは何もない観光地。

駐車場に戻ってみると俺のオートバイの横に、さっき会ったスズキ・GS400の二人がいた。

二人が橋抗岩を見学している間、俺は駐車場で待っていて三人で国道42でサファリー・パークまで行き、中に入ろうとしたが入場料が高かったので、やめて門の前で記念写真を撮って今度こそ『サヨウナラダネ！』と言って別れる、別れる前に二人が昨夜、泊まったユース・ホテルを教えてくれた。

今夜の宿は、太知ユース・ホテルだ！



(サファリー・パークの前で)

国道42から県道240に入つて、太地ユース・ホテルに向かうが途中、道に迷ってしまう。（近くまで来ているはずなのに・・・）

町立クジラ博物館の近くにあった、お好み焼き屋のおばさんに道を教えてもらい、しばらく走ってまた迷ってしまう。

全然、解らなく成ってしまい今度は港のバス停に止まっていたバスの運ちゃんに教えてもらい、バスの運ちゃんはバスから降りて来て地図まで書いてくれた。

バスの運ちゃんの教えと地図を見ながら走って、丘の見える道に出て坂道を登って行くと建物が見えて来た。

今夜は、生まれて初めてのユース・ホテル（¥2,500）は港の丘の上にある太地ユース・ホテルで今夜のミーティングは無し、その代わりに港の花火大会を皆で見に行つて来た。



（多分、太知ユース・ホテルの丘から見た風景だと思う？）

全走行距離 207.8 km・燃費 不明

8月15日（火） 雨のち晴れのち曇り

朝、起きてみると外は雨・・・。

太地ユース・ホテルを出発する時になると、凄い大雨になって雨の中、何も考えずに、ただひたすら国道42（熊野街道）を走り続ける。

雨でなければ、[熊野那智大社\[Y1\]](#)に行くつもりだったが、カッパを着て467段の石段を登って那智の滝までは無理。

国道42（熊野街道）の途中で濡れた、カッパ・ヘルメット・ブーツを道路に広げて乾かす。（夏は乾くのが早くていい）

自動車を通る人達は皆、何だろう！何をしているのだろうと横目で見えていく・・・。（30分位で乾いたので休憩は終わり）



（ブーツ・ヘルメットの中は雨と汗でグチャグチャなので道路で乾かす）

[Y1]熊野那智大社

【日本書紀や古事記の中で、神武天皇(じんむてんのう)を導いたとされているのが八咫鳥(やたからす)で、熊野那智大社に今でも大切に祀られている。神武天皇が東征の為、東に向かったが熊野の豪族の攻撃に遭い思う様に進行できない時に、八咫鳥が現われ熊野国から大和国へ導かれる事によって、大和の都を作る事が出来た】

【八咫鳥とは、道教や神道では古来から3の数は、太陽を現す数字で、神話に登場する太陽の中に棲む3本足の鳥が八咫鳥(やたからす)と同一視する説がある】

【咫(あた)とは、長さの単位で、親指と人差し指を広げた長さ（約18センチメートル）の事で八咫鳥は、約1440cmの大きさになる】

【戦国時代では、紀伊国の雑賀衆(ざっかしゅう)（高い軍事力を持った傭兵軍団）を治めた鈴木家は、八咫鳥を家紋・旗印に用いた】

国道42（熊野古道）で、三重県に入ってから今度は雷がゴロゴロと鳴り始め七里御浜に着く頃には雨雲を追い越しまった。



(晴れ間が出たのでカッパを脱ぐ)

国道42の眺めのいい駐車場でカッパを脱ぐ、ここでカワサキ・Z2と会う。
この人たちも、ここでカッパを脱いで休憩の様だ！3台の内2台は集合マフラー、1台はノーマル。



(Z2、カッコイイですね！)



(七里御浜)

出発の準備をして、国道42で鈴鹿サーキットを目指す。
松坂市に入る少し手前で休憩をしている時に、スズキ・GL400と会い鈴鹿サーキット

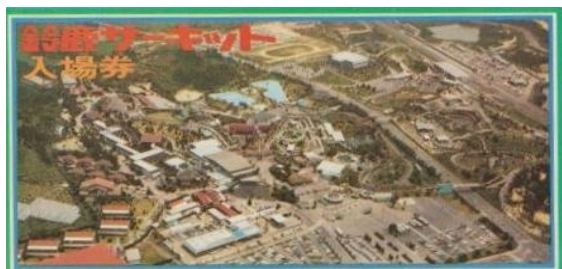
トまで一緒に走る事になった。

国道42から国道23に入り鈴鹿市に向かう。

鈴鹿市に入ってから、標識に従って走っていたら鈴鹿サーキットに迷わずに着いた。

(当たり前か～あ)

入園料と駐車料金を払って二人で見学、初めて見るサーキットに感動、凄い！

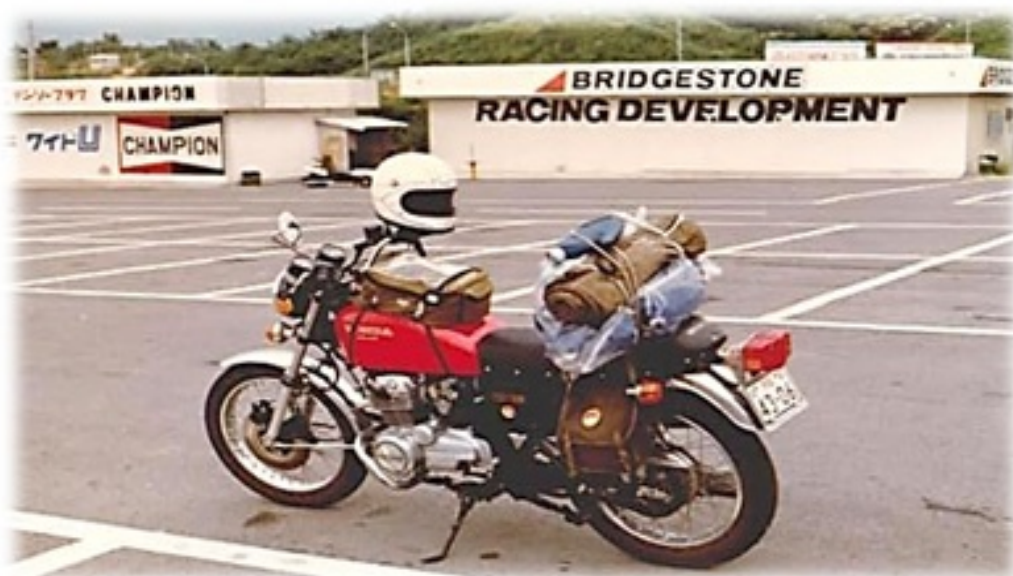


(鈴鹿サーキットの入場券・駐車券)

見学を終わって出発の支度をしていると追い越した雨雲が追い付いて、また雨を落とし始めた。

スズキ・GL400は、家に帰るので一足先に出発。(俺は雨が止むまで一人で雨宿り)

雨が小降りになったので、鈴鹿サーキットから国道23を戻って伊勢市の二見浦にある今夜の宿に向かって出発。



(鈴鹿サーキットの駐車場)

夜の宿は、太江寺ユース・ホテル (¥2,500)

国道23から国道42に入り、二見浦までは順調に走って来たのに夫婦岩(めおといわ)

の近くある太江寺ユース・ホテルに行く途中で道に迷う。

近くに在った酒屋のおじさんに道を教えてもらう。（ユース・ホテルは、酒屋からほんの30メートル先にあった）

このユース・ホテルは、お寺のユース・ホテルで駐車場から本堂まで長い石の階段がある。

キャンプ用品が入っている荷物を一人で運ぶのは一苦労、どうしようかと考えていたら近所の子供が『お兄ちゃん、ユース・ホテルに行くの？じゃあ！僕、荷物を持ってあげるヨ』と話し掛けてきた。

せっかくの好意だから手伝ってもらい『アリガトウ！』の一言とガムをあげて別れた。ここのユース・ホテルも人でいっぱい・・・！お寺の大広間に布団を並べて眠る様だ。

小学生が夏休みの林間学校で、このユース・ホテルを使っていて先生が子供たちに集団生活の基礎を色々と話している。

風呂に入ろうと風呂場に行けば、小学生の団体で一杯で小学生達は海水パンツをはいて風呂に入っているし、洗い場で先生が『水を出しっぱなしにするな！』と大声を出している（先生は、たいへんだあ・・・）

食堂も小学生の団体で座る場所が無いので時間を少しずらして夕食を食べる。

明日は、フェリーで6日ぶりの浜松へ・・・。

浜松に着いて浜名湖の近くに【ダイダラボッチの足跡】と言われている場所に行くつもり。

急ぐ旅でも無いので、ゆっくり帰ればいい。

CB400・FOURは、国道42（熊野街道）のどの辺かは忘れてしまったが、途中で8,000kmに成った。

那智大社に行けなかったのが残念だけど、いつは行きたい場所の一つだ。

全走行距離 276.8km・燃費 不明

8月16日（水） 晴れのち曇り

太江寺ユース・ホテルをあとにして昨日、時間がなくて行けなかった夫婦岩(めおといわ)に寄ってから国道42で伊勢市まで戻り伊勢神宮（内宮・外宮）[Y1]を参拝。

[Y1]伊勢神宮

【ヘブライ語で、イセ（伊勢）という名は「神の救い」という意味を持つ、ヘブライ語と日本語の発音が類似している】

【国鉄・伊勢駅のそばの街道沿いの石灯籠(いしとうろう)に、ユダヤの紋章である「ダビデの星」が刻まれている】

【伊勢神宮の秘宝である八咫(やた)の鏡の裏には、ヘブライ語で文字で『我は在りて在る者なり』が書かれている。この言葉は、モーゼがシナイ山で絶対神ヤハウエから授った言葉とまったく同じ言葉】

【伊勢神宮は、古代イスラエルのエルサレムに在った、ヤハウエの神殿と類似点が余りにも多い】

【神官の白い衣装と裾のぶら下がる房(ふさ)まで神を祭祀するレビ族の衣装に類似し、神官が神に仕(つか)える仕方、神殿の警備の仕方、警備の人数、交代の儀式そのものまで、エルサレムに在ったヤハウエの神殿で行われていた通りに行われていて、20年に一度の遷宮(せんぐう)の儀式もまた、モーゼの時代に神から約束された地カレンに向かい、移動していた幕屋(まくや)（移動式組立神殿）のあり方も同じ】

【御神体をしまう箱を御船代(みふなしろ)と呼んでいて、古代イスラエルの契約の箱もアーク（船）と呼んでいた】

【伊勢神宮の奥の宮である『伊雑(いざわ)の宮』の正式な紋章はダビデの星ある】



(伊勢神宮)

伊勢神宮の参道には石灯籠が沢山、奉納されている。
石灯籠の中には古い時代の物もあって、その中にダビデの星の類似の紋章が彫られているのもある。



(菊花紋とダビデの星の紋章の類似の石灯籠)

伊勢神宮から少し離れた所にある猿田彦神社[Y1]にも寄って拝観。

[Y1]猿田彦神社

神話の中の猿田彦は鼻の長さは七咫(ななた)=約1.2m・身長は七尋(ななひろ)=約12.6mとある



(猿田彦神社の前)

伊勢市から国道42で、鳥羽フェリー・ターミナル向かう。(意外と早く着いた)
まだ、フェリーの時間には早いので、ユース・ホテルでもらったマリリン・パークの割

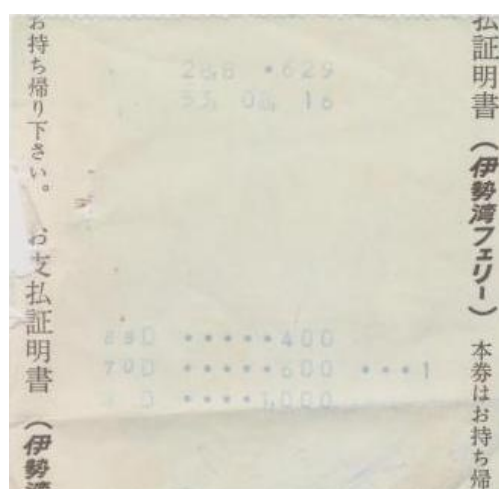
引券（¥450）を使いマリン・パークを見学と昼食を食べる。（昼食を食べた後、急に腹が痛くなる・・・）



（もらった割引入場券の半券）

持って来た薬を飲んで痛い腹を我慢しながらオートバイを走らせ、鳥羽の伊勢湾フェリー乗り場に着いたら腹痛が治っていた。

乗船手続きをしてPM1：00発のフェリー（¥1,000）に乗る事にした。



（フェリーの領収書）

フェリーの中は、人でいっぱい座る場所が無いから伊良湖(いらご)に着くまで、ほとんどの時間デッキで海を眺めていた。

甲板で、今回初のツーリングが無事に終わった事を祝って、アイス・コーヒーで乾杯！（フェリーは、1時間で到着）

しかし、今日は道に迷わなかった代わりに夫婦岩(めおといわ)の所でフィルムの枚数が終わったので巻き戻して、カメラから出した時に手が滑ってフィルムを落としてフィルム本体のキャップが外れた。

現像をしてみないと分からないけど多分、光が入ってしまったと思う。

伊良湖には、PM 2 : 0 0 前に到着。

伊良湖の国道42は、走り慣れた道いつ来ても気持ちいい道を走り国道1で浜松へと向かう。

家になる前に寄り道、国道1から三ヶ日町(みつかびちょう)の[巨人の足跡\[Y1\]](#)を見に遺跡に寄り(説明看板と窪地(くぼち)があるだけ)、PM 4 : 0 0 に浜名湖の大草山(おおくさやま)に着いてタバコに火を付けて一服。(売店のスピーカーから“アリスのチャンピオン”が流れている)

家に帰る前に、また寄り道!(今度は浜松短期大学の帰りに、たまに寄る行きつけの喫茶店「永遠(とわ)」に寄ってコーヒーを飲む)

何とか、5泊6日のツーリングが終わって無事に帰って来た事に感謝“ホッ”した。

6日ぶりの浜松まあ!色々な事があったし色々な人との出会い親切にしてもらった。

[Y1]巨人の足跡

【ダイダラボウシ(大(だい)多良法師(だらほうし))と言う、雲つくような大男が東の国に山を作ろうとして、西の国の土を箕(み)に入れて運んでいく途中、中の国のこの地にある扇山(おおぎやま)に腰かけて休み、弁当を食べたその時に、おにぎりの中に入ってた小石を捨てたのが礫(つぶて)島で、大男の足跡がこの窪地(くぼち)であり、立ち上がろうとした時、箕(み)から土砂がこぼれて盛り上がったのが館山寺の大草山(おおくさやま)、東の国に造られたのが富士山で、西の国の土砂を採った跡が琵琶湖と言い伝えられている】



(ただの窪地がダイダラボウチの足跡)

全走行距離 1 5 2 . 7 k m ・燃費 不明